

読者の声

新春おめでとろ 頑張りろ
 、労働者遣世。たかながいい
 じやないか。俺は釜がうらや
 まじし。山には、なかま。二
 十年に数回へ今回オロ署で
 てるが、釜には、およばない
 よ。労働者遣世。毎度ほん
 とうにまちどろい。これこ
 ど俺のラ、シンパンだ。
 俺は釜に行きたくなつた。
 山の労働者すべてが、釜に移
 住する。そこで無人と化した
 山で、ドヤ、食堂、店すべて
 不景気風に、つじれちまえ。
 ポリ公も一日に80回あくがこ
 る。

私は高校時代から山谷・釜
 ケ崎・寿町を歩き回り、少く
 の期間でそれほど生活もした
 ことがあります。元々は大阪
 出身ですが、大学を転々とし
 て現在は佐賀県に居て社会福
 祉を勉強しています。
 現在の私の収入源は福岡へ
 出て筑港にて立ちん坊として稼
 いでいます。山、山谷フルス
 じやないが、俺達の世界が来
 なければいかんと信じている
 ものです。
 私達は社会的弱者であるか
 もこれない。だから団結する
 んだといわれがちですが、た
 だ人が集った集団にすぎない
 と思うのです。本来の団結と
 はゆたかと多様性が必要なのだ。

今年も寒重くようぞ。
 江 孝田へ山谷、三ーオー
 本 本
 二水からもよろしく
 前略 突然の便りで御免なご
 い。人は生まれながらにして、
 自分を守り他人を傷付けては
 いけないと知っている筈なの
 に、銀座通り裏通り風吹けば
 血の匂い、雨降れば人の涙の
 ような道。
 諸兄等の声なき労働者を、
 勇気と情熱、激励、愛情のこ
 との葉には卒直に感謝します。
 弱壁、小生も文字の端くれ
 半ばながら、時には投函し、
 蔵書等の寄贈や、社中の方々の
 アドバイスを御受け出来れば
 幸甚です。

疑問(問題意識)を自らが持
 つことだ。自らが動くことだ。
 そう思うわけです。
 その点、寿町での労働者主
 体の夜間学校は素晴らしいも
 のだと思っっています。今の労
 働者には闘争(こと)の力を保持
 することが必要だと思つから
 ずです。
 武田リン太郎の「釜ヶ崎」
 是非読みたいと思います。
 これからは編集者のみなさ
 ん頑張ってください。
 山下 敏幸
 生きて暮を……
 一〇年ほど前、友だちが釜
 ケ崎で働いていて、僕が食ひ
 つめていた時、釜ヶ崎で働こ

あれてない
 二ことほ長いぞ 梅の花
 一時逗留者 三什正夫 三才
 マジテーション
 世界の首領笹川了二と藤井
 部活解同の西成市議、税金
 泥をけ落せ 舌田信太郎
 暴力団直系の飯塚を叩きつ
 ぐせ
 釜ヶ崎に春はまだ遠い 殿
 を聞き 変転する世界情勢を
 直視せよ
 平名 和平 三才
 団結し、考え、動け
 正月早々から風邪をひいて
 寝ていた処、友人が私を急ぎに
 「労働者遣世」を留めて、持
 って来てくれまことを。

うと思つたことがある。
 知人がほかへ就職の世話を
 してくれたので、ちのほう
 へ行った。そこで今までで
 てる。
 かく、ずうつといつも釜
 ケ崎のことは関心をもちつづ
 けている。知つている人もた
 くさんいる。
 それで、越冬の炊き出しな
 どにカンパを毎年、知人に呼
 びかけ平均四万円位、キリス
 ト教のみに送っている。また、
 服なども集めて送っている。
 小杉さん、川野真実、寺島さ
 んの本、広瀬さんの本、スト
 ロームさん、日本、又、労働者
 遣世を讀み、日本の経済社
 会構造の矛盾、行政の差別的

死ぬなど考えながら、死なずに生きて暮らすと直接、誓のことが長になる。

とくぬいきぼう(四七オ)

出張から帰って

いつ来ても、二二はゴウゴウ、ラズ巻いとるネ。そのわりには隣気がないネ。くすぶりがヨケエーあるせいから。屋台や古本屋がたくさんあるせいから。ノレンがバタパタ風にいじめられているせいから。オッパン半狂乱のすかいら。オッパン半狂乱のすかいらで歩いてる。オバハンくつしたものはかんでつめたいやろ、そんな所へ、たみ水てて。

こんなところで死んだらアカ

△本の紹介▽

雨の慟哭(在日朝鮮人土工の生活史)

金賢 著 (田畑書店 千六百円)

むずかしい言葉を題にした本です。このむずかしい言葉は「どうこく」と読み、辞書には「大声をあげてなげき泣くこと」と説明してあります。

この本には、明治の末ごろから大正を通過して昭和の二十年八月十五日まで、日本が朝鮮を支配していた時代に、故郷をはなれて内地へやってきたり、連れてこられたりした朝鮮人が、どんなに苦しい労働を強制されたか、悪い待遇にガマンさせられたか、そういうことが主に書いてあります。それと、そういう圧制に対する抵抗の記録もあります。

たとえば、昭和のはじめごろの話が、体験者の思い出しとして次のように出てきます。

——仕事が終わって飯場に帰っていると、そこでソシキ屋がいて、それらが酒をつけで出してくれるとキューと一杯引っかけて、風呂があれば風呂に行つて、その滞りにまた一パイ引っかけて、寝る前にもまた一パイという具合——

ソシキ屋のソシキは組織ではありません。諸式のことです。諸式とは飯場の帳付けとかいった役まわりの者でしょう。

ンで。オバハンの顔いつまでも、いつまでも見てみたら、オバハン、俺の顔見てニコッと笑った。オバハン、美人やネ。俺のオカハンや。

赤塚 弘(ニハオン)

無料宿泊所でどうける奴

年末の無料宿泊所の市の予算は十億円だという。

万博のときに土地成金かできたように、無料宿泊所の二とでも成金になるホスがいる。

労働者は南港の宿泊所は市が直営しているというがどう

ではない。市から委託された商人のボスかかっているわけ

だ。あと二にいろいろ職員ゾラは役人でなくボスに雇われてい

る連中だ。ボスは俺の金を市からもらい、その内から宿泊者の食糧と管理費を使い、後の残り

がボスのふところどころがり込

お仕組だ。使う金より残りの方が大きい。ボスと役人の間にワ

イロがあれだけ釜ヶ崎版のロッキード事件。世の中は表に出るこ

とより出ないことが多い。(役人のたのしみ)

いづれにいても無料宿泊所の赤字は赤字の心配がないもうけ

振りで財界でも有名。松下幸之助もひっくりさるほどの赤字の

神様だ。

ぶらり瓢箪(四二オ)

加藤さん、小川さん、ハガキ有勢う！ 浪世にハガキを！！

いままの話とは別の体験者が、やっぱり酒について、こりしゃべってる記録もあります。

——酒なしに生きられないような世界でしたからね。酒が入ればわが世の春ですから。私たちに当時希望がありましたか？——

また、カネのことをもう一人の体験者が言っています。こんなふうに。

——賃金を払え、払わないで親方とよくもめました。ときには集団で親方を殴りつけたりもしましたが、それで警察に捕まるのは二二のほりでしたから、割に合いません——

おもしろい、と言っただけですが、でもそう思いませんか。みじかい抜き書き紹介の体験談が、いままの釜の労働者の状態とそっくり同じなのですね。形だけで生きるようなもの、じきにバカラレルのも。

ただ、はつきりちがうことは、朝鮮人二二に故郷を遠く離れていた、というよりも異国で働いていたこと。自分の租界を植民地にして威張っている憎らしい異国にいた朝鮮人土工の、なげき悲しみの生活史としてこの本はたくさんの体験談を集めた本だと思えます。

しかしいままの釜から見れば物足りない点があります。何が？——それはここでは伏せておいて、やがて物足りる本の出るように期待しましょう。